

こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blogです

アーカイブ: 2008年5月

2008/05/30

🕒 16:03:56, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 588 

詩の歳時記ー167




立葵洪水はわが死後に来よ

齋藤慎爾

幾筋もの川に沿って
生きついできたこのいのち
わが死は洪水のごとくあれ
夏に直立する花よ
ただ美しくさざめいて在れ

[編集](#)

2008/05/28

🕒 18:11:13, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 635 

詩の歳時記ー166

こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blog
[吸殻山383番地の家に戻る。](#)
[中央1番地に戻る。](#)

- [最新](#) (キャッシュ)
- [最新](#) (キャッシュされない)

2008年5月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
4	5	6	7	8		
11	12	13	14	15		
18	19	20	21	22		
25	26	27	28	29		
<< <						

- [最近のコメント](#)

Heavy Hitters

- [Test](#) (20 visits)
- [Walking1日目。](#) (20 visits)
- [詩の歳時記ー56](#) (20 visits)
- [引用文ー23・あきらめ](#)
- [詩の歳時記ー117](#) (19 visits)
- [詩の歳時記ー82](#) (19 visits)
- [花守](#) (19 visits)
- [かぼちゃな一日](#) (19 visits)
- [詩の歳時記ー305](#) 「夕」 (19 visits)
- [詩の歳時記ー274](#) 「あ」 (19 visits)
- [詩の歳時記ー253](#) 「柳」 (19 visits)
- [詩の歳時記ー123](#) 「桜」 (19 visits)

検索

- ☒ 全ての語
- ☐ いずれかの語



(Photo by KIRI)

青梅が闇にびっしり泣く櫻児

西東三鬼

夏の夜

青梅がしずかに重みを増してゆく
 櫻児の泣き声が聴こえる
 汗をかいているいのち
 生まれたことは哀しみではない

[編集](#)


2008/05/27

📅 14:15:13, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 767

詩の歳時記ー165

フレーズ

[検索](#)

カテゴリ

- [All](#)
- [百人百詩](#) (100)
- [詩の歳時記](#) (365)
- [詩日記](#) (20)
- [My Haiku](#) (49)
- [Walking](#) (13)
- [引用文](#) (31)
- [日記](#) (163)

[選択](#)

アーカイブ

- [2015年11月](#) (1)
- [2015年7月](#) (1)
- [2015年5月](#) (2)
- [2015年3月](#) (3)
- [2015年2月](#) (2)
- [2015年1月](#) (3)
- [2014年12月](#) (2)
- [2014年11月](#) (2)
- [2014年10月](#) (3)
- [2014年9月](#) (2)
- [2014年8月](#) (2)
- [2014年7月](#) (2)
- [続き...](#)

いろいろ

- [管理](#)
- [プロフィール \(admin\)](#)
- [ログアウト \(admin\)](#)

このブログの配信

- RSS 0.92: [投稿](#), [コメン](#)
- RSS 1.0: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 2.0: [投稿](#), [コメント](#)



■ Atom: [投稿](#), [コメント](#)

[What is RSS?](#)

powered by
b2evolution

山河また一年経たり田を植うる

相馬遷子

百年前も
百年後もそうであろうか
寡黙に一年を繰り返した
我が背中に陽を負って
田植える

* 百年後の見知らぬ男わが田打つ

齋藤美規

[2 コメント](#)・[編集](#)



2008/05/26

🕒 15:42:25, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 584

詩の歳時記一**164**



蓮いま開く気に充つ無音界


加藤さぶろ

水底に根をあずけ
水面に葉をうかべ
蓮は今開かむとす
開花の音を聴きのがすまいと
世界は息をつめる

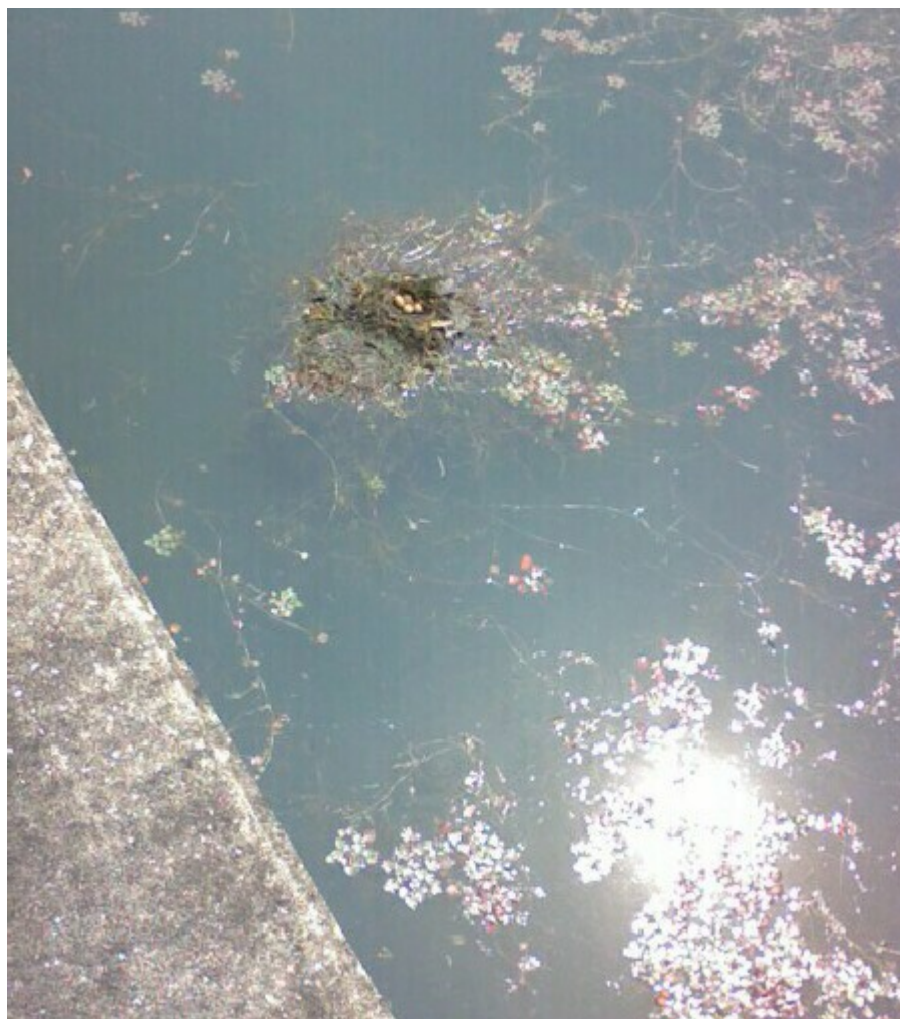
• [編集](#)



2008/05/24

🕒 02:21:05, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 772 

詩の歳時記—163



(Photo by libell)

母の留守陽があたためる浮き巣かな

高田昭子

母鳥は
今日の糧をさがしています
五月のひかりが水面をあたため
浮き巣のちいさな卵たちは
まどろんでいました

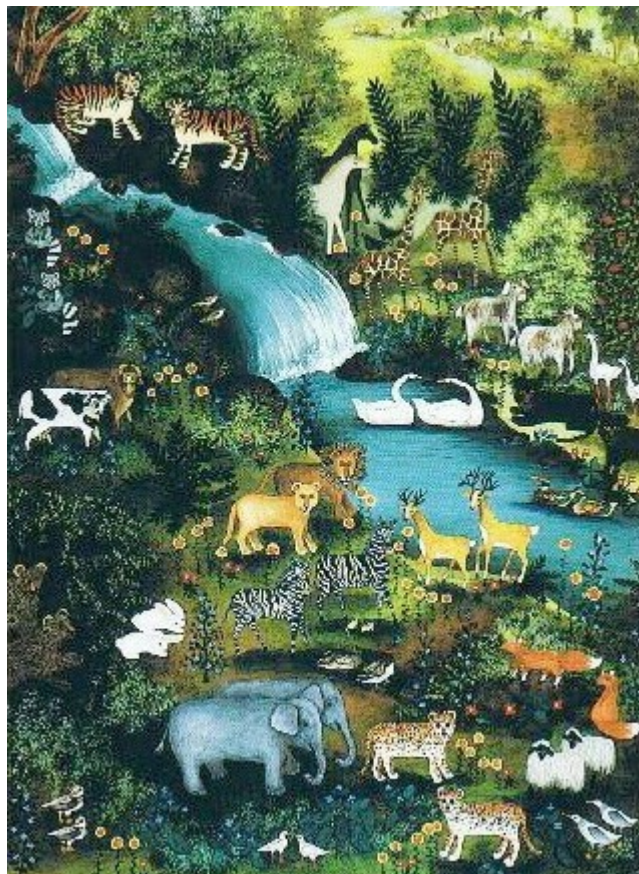
[3 コメント](#)・[編集](#)



2008/05/23

📅 18:14:43, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 601 🇯🇵

詩の歳時記—162



厨にも水鳴る喜雨の音の中 谷野予志

蛇口から流れる水がわずかに細くなる
闇のなかに張りめぐらされた水路のどこかを
見知らぬひとが開いている
濡れた女たちの手
遠いむかしから……

• [編集](#)



2008/05/22

🕒 17:22:06, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 723 🇯🇵

詩の歳時記—**161**



綿毛いざ飛ばむ初夏の風を待つ

高田昭子

風がうながすのか
綿毛の意志か
風の旅がはじまる
わたくしの背中の
翼の痕跡がかすかに痛い

• [編集](#)



2008/05/20

🕒 21:40:53, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 620 

詩の歳時記—160



ひなげしの花びらたたむ真似ばかり

阿波野青畝

わたくしは病むひとと別れてきたばかり

台風が近づいている
病院の庭には
薄紙のような花びらが風に揺れている
悲しみをしずかにたたむ

• [編集](#)



2008/05/18

🕒 17:52:52, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 714 🇯🇵

詩の歳時記一159



初夏のわれに飽かなき人あはれ

永田耕衣

遠い土地から
夜更けに届くひとの声
初夏に生まれ 初夏に出会ったひと
声は闇のなかでやさしい風となり
やがて還ってくる

• [編集](#)



2008/05/17

🕒 16:43:23, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 2295 🇯🇵

詩の歳時記一158



紙魚ならば棲みても見たき一書あり


能村登四郎

隠される
埋もれる
包まれる
すべてが愛の行為だとしたら
わたくしたちは終わりのない一冊の物語

[2 コメント](#)・[編集](#)



2008/05/16

🕒 01:02:08, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 607 

詩の歳時記—157



(Photo by Yukuko)

藤房の盛り上らむとしては垂れ

鷹羽狩行

この重いのちの房
わたくしたちは咲いてしまった
微風のなかで戸惑うばかり
天のまぼろしの糸
あやつりの花となって

• [編集](#)



2008/05/14

📅 21:25:05, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 567 🇯🇵

詩の歳時記—156



夜はさらに森のふくらみ椎の花

檜紀代

夜の森をぬけて 朝のひかりのなか
からだの奥から椎の花が匂いたつので
両膝をそろえて座している
「今日」という神からのささやかな分け前
「昨日」という思い出

• [編集](#)



2008/05/11

🕒 21:19:46, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 653 | 🇯🇵

詩の歳時記—155



(Photp by Garakutabako)

蛇いちご魂二三箇色づきぬ

河原枇杷男

たましい……
このなつかしきものよ
わたくしたちのいのちの汀
ちいさな会話のように
共に照らしあえるのだろうか

・編集



2008/05/09

📅 21:23:14, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 684 🇯🇵

詩の歳時記—154



初夏の地震（なみ）鈴の音止みて小事とす

高田昭子

鈴の音は
誰もこない家のドアで
ふいにはげしく鳴りだす
揺れる地上
遠いあなたも揺れているのですね

・編集



2008/05/08

🕒 16:40:28, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 663

詩の歳時記—153



(Photo by KIRI)

深山石楠花この世かの世の遠い空

岸秋溪子

花が空の色を染めかえる時間
わたくしたちの意識は
空を彷徨うばかり
深山路に佇むあなたの背後に
この世かの世の境目が消えた

• [編集](#)



2008/05/07

🕒 22:35:28, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 605

詩の歳時記一**152**



(Photo by KIRI)


脱ぎ捨ててひとふし見せよ竹の皮 蕪村

季節を脱ぐ
初夏の緑を真っすぐに立てよ
天を目ざせよ
積み上げよ
真っ白な円筒の闇を

• [編集](#)



2008/05/05

🕒 02:45:56, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 740 

詩の歳時記—**151**



乱好む太刀にあらずと飾りけり

阿波野青畝

幼子の薄闇と光りの視界には
今なにが見えているのか
太刀など知るよしもない子に
戦乱の時代の武具を飾る
その矛盾のなかで大声で泣いてみよ

・編集



2008/05/04

🕒 17:05:57, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 618

詩の歳時記ー150



子は父を選べず風の端午なり


土田恒平

幼い手が作った鯉のぼりが
乗り換え駅の天井を覆いつくしている
この五月もここをくぐりぬけて
どこへ行こうとしているのか
この世あの世に在るものたちよ

• [編集](#)



2008/05/03

🕒 18:50:39, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 796 

詩の歳時記—149



(Photo by KIRI)

晩鐘は鈴蘭の野を出でず消ゆ

齋藤玄

高い塔の上から晩鐘の音が聴こえる
暮れなずむ初夏の空気がかすかに震える
鈴蘭の野のむこうにある
小さな家の窓辺に
祈りの時間は伝わったのだろうか

• [編集](#)



Original template design by [François PLANQUE](#).

